

共和党のドナルド・トランプ氏(70)が制した今回の大統領選挙でも、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)が大きな役割を果たした。8年前、オバマ大統領はSNSを巧みに駆使して勝利したが、今回はSNSで急成長した右翼系メディアが、トランプ氏の過激な主張を増幅。米社会の「分断」はますます広がっていった。

## トランプ 第2幕 劇場

現場から 下

大統領選投票日前日の7日。激戦区ノースカロライナ州ローリーで開かれたトランプ氏の集会には熱心な支持者たちが詰めかけた。「この国は変化が必要な

んだ。彼は変化を体現している」。会場で熱く語る、会員のケリー・ダンラップさん(46)は、「民主党を露骨に応援する新聞、テレビの報道はフェアではないから目にしない」という。では、どこでニュースを得ているのか。「フェイスブック(FB)だ」。即座にそう答えた。

「どの報道機関も100%信じられるはずがない」というリッチ・カマーチョさん(31)。FBでよく見ているという右翼系サイトの名を挙げた。米国のFBは自分のページにニュースが表示されるため、日々のニュースはF

Bで得る人が増えている。米民間調査機関が今年行った調査では、成人の44%がニュースをFB、ツイッターなどのSNSから得ている。1980〜2000年代初めに生まれた「ミレニアル世代」を中心に、若いほどその傾向は強まる。

FBのニュースは、ニューヨーク・タイムズなど有力紙のサイトだけではない。無名のサイトの記事も同列に表示される。さらに利用者の傾向を分析し、好みのニュースを自動選別するため、これがトランプ支持者たちを右翼系サイトに誘引する結果となった。

# 過激ニュース拡散し「事実」に

# SNS

ローリーに本拠を置く新興のネットサイト「ライト・ウィング・ニュース(RWN)」はFBで急成長した文字通り右翼系メディアの代表格だ。オバマ大統領に対する激しい批判で注目を集め、サイトのフォロワー(閲覧者)は750万人に上る。

選挙期間中に配信したのはトランプ氏の主張をなぞったものがほとんど。サイトの創始者、ジョン・ホーキンス氏(45)は、「FBでフォロワー数が伸びたことで広告収入が増え、経営的に成り立つようになった」と語る。スタッフは20人程度。論評などが多く、取材

はほとんどしない。ホーキンス氏は報道機関で働いた経験はないが、「我々の仕事はジャーナリスト、活動家、批評家の三つそろったハイブリッドのようなもの」という。

新興サイトの中には、民主党を支持する急進的な左派系サイトもあるが、圧倒的に多いのは白人層に支持される右翼系サイトだ。選挙の不正を公然と主張し、民主党のヒラリー・クリントン氏のメール問題などを巡って悪意が込められた内容も多く、明らかな誤報も少なくない。同じ考えを有する者同士で情報を共有、転送できるため、あつとい

う間に拡散する。トランプ氏の誤った主張がこうしたサイトを通じて「事実」として独り歩きした。

大手ニュースサイトの元編集長で現在は雑誌編集者のマックス・リード氏(31)は、トランプ氏の勝利を支えた右翼系メディアの存在は米社会の中で無視できないほど大きくなったと感じている。「共感するニュースだけを選別して提供するSNSは自分の考えを強固にさせるだけ」。SNSがメディアの役割を担うようになった問題点を指摘し、嘆いた。

「このままでは米社会の分断は広がる一方だ。SNSがメディアとして定着してしまうと、選挙で有権者が正しい判断をすることがますます難しくなる」(ローリー 有光裕、二